

## 令和4年(2022年)年頭のご挨拶

# 新しい産業基盤の 構築を考えよう



舞鶴商工会議所  
会頭 小西 剛

明けましておめでとうございます。  
令和4年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

日本経済は、長引くコロナ感染症の感染拡大に伴い、断続的に緊急事態宣言が発出されるなか、一進一退の動きとなっておりますが、10月の緊急事態宣言解除後も新規感染者数が低位で推移していることから、経済活動は持ち直し正常化に向かうものとされております。

しかしながら、私たち中小・小規模企業は、コロナ禍は回復に向かうとの期待感があるものの、まだまだ、厳しい経営環境に置かれております。商工会議所は、ウイズコロナ・アフターコロナに向けた各種経営相談の対応を続けるとともに、行政施策をはじめとする各種支援策の周知、活用などの取り組みに努めてまいります。

さて、舞鶴におきましては、もう一つの大きな課題があります。過去120年の長きにわたり、舞鶴のものづくり産業を牽引してきた造船業の実質的な終焉は、舞鶴の産業基盤を大きく毀損させるものであります。私たちは、造船業に代わる、生産性が高くかつ雇用創出が期待できる新しい産業を見出していかなければなりません。

今、世界主要先進国と日本は、2050年脱炭素を目指しており、昨年10月に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」においては、2030年までに、再生可能エネルギーの主力電源化を徹底させるとしています。

こうした中で、カーボンニュートラル時代を見据え、水素を新たな資源として位置付け、社会実装を加速するため、発電部門ではガス火力への30%水素混焼や水素専焼、石炭火力への20%アンモニア混焼の導入・普

及を目標に環境整備を行うとされています。また、原子力では、立地自治体との丁寧な対話を通じた認識の共有や信頼関係の深化を図る中で、立地地域の将来像を共に描く枠組み等を設け、地域の産業の連携や新産業による雇用の創出も含めた、実態に即した支援に取り組むとされているところです。

本市は、日本海側の重要拠点港である京都舞鶴港、造船業で培われた高い技術力を有するものづくり産業を有しており、関西の約500万世帯に電力を供給する舞鶴発電所が立地し、隣接には全国で唯一の府県域を超えてPAZを有する高浜発電所が所在するなど、関西経済圏を支える一大エネルギー拠点でもあります。

これまでから、私は、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの普及拡大には、その不安定さを補完する「高効率火力」や安全性が確認された「原子力」によるベースロード電源が必要であり、本市産業界は「ベースロード電源」を安全に維持管理する役割を果たしていることを申し上げてきました。

100年先の舞鶴の輝く未来を見据え、重要な地方拠点都市である舞鶴市において、舞鶴の地理的優位性と長年培ってきた「産業の集積」と「ものづくりの技術」が活かせるエネルギー関連事業などの新しい産業の構築に向けた取り組みを考えていかなければならないと考えています。

本年も、舞鶴商工会議所に対しまして、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、舞鶴のさらなる発展と会員企業のご繁栄、並びに皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。